

発足

ささやま医療センターの産科充実に向けての検討会

兵庫医科大学ささやま医療センターが、産科における分娩(出産)機能の休止を検討されていることを受け、市では、産科の充実に向けての検討が始まりました。問い合わせ 健康課 ☎ 594・1117

市の中核病院として大きな役割を担っている兵庫医科大学ささやま医療センター。センターでは現在、内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、麻酔科、放射線科など9診療科目を開業しています。2017年度の市の出生数は269人。このうち同センターでは最多の89人が出産し、全体の3割を担っています。

センターのかかわり

これまで市では、ささやま医療センターの存続に向けて取り組んできました。一時は撤退の可能性もさやかれる中、市と兵庫医科大学、兵庫県との3者協議の結果、2008年7月には「兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定」を締結し、病院の10年間の存続が決まりました。

そして、基本協定が満了を迎えた2018年6月には、今後7年間運営を続けることを盛り込んだ新たな

協定書に合意、調印しました。基本協定には、「産科、婦人科などの診療科の存続と充実に努める」「診療科目の存続が困難になった場合には両者が協議し存続、再開に努力する」と明記しており、市は運営補助金として1億2600万円を交付することになっています。

基本協定の内容とは？ (一部抜粋)

兵庫医科大学ささやま医療センターは内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・産科・婦人科・小児科・放射線科・麻酔科の存続と充実に努める

医療従事者の不足、経営状況その他やむを得ない事情により、診療科目の存続が困難となった場合には、兵庫県立ち会いのもとに協議のうえ、一定期間休止等の措置を講じることもやむを得ないものとするが、兵庫医大と市が協力のうえ、当該診療科の存続、再開について可能な限り努力する

運営費の補助金として年1億2,600万円を交付する。救急医療にかかわる補助金として9,000万円を交付する

ささやま医療センターの産科充実に向けての検討会委員名簿 (敬称略)

所属・役職	名前
1 丹波篠山市役所 市長	酒井 隆明
2 丹波篠山市役所 副市長	平野 斉
3 丹波篠山市医師会 会長	芦田 定
4 丹波篠山市医師会 副会長	小嶋 敏誠
5 丹波篠山市自治会長会 会長	西潟 弘
6 丹波篠山市民生委員児童委員協議会 主任児童委員	西田 直美
7 丹波篠山市愛育会 会長	太田 鈴子
8 丹波篠山市社会福祉協議会 副会長	土性 里花
9 人と夢をつなげ隊	畑 弘恵
10 兵庫医科大学ささやま医療センター 支援グループささゆり	松本 正義
12 在宅助産師	深田 和泉
	高瀬 晶子
	成瀬 郁
14 在宅保健師	稲川なをみ
15 ささやま暮らし開き風味里	加古佳与子
16 ららばいプロジェクト	田村 博子
17 市民委員	稲川沙弥佳
	岩田 瑞希
	谷岡 春南
	中嶋 唯

顧問	名前
1 兵庫県議会議員	小西 隆紀



兵庫医科大学ささやま医療センター



産科充実のために

市では、兵庫医科大学ささやま医療センターの産科が分娩機能を休止する意向を受け、広く市民の皆さんの声を聴くため、7月6日「ささやま医療センターの産科充実に向けての検討会」を発足。同日、丹南健康福祉センターで初会合を行いました。

検討会は市医師会、助産師、保健師、市民委員、学識経験者ら20人で構成。会長には酒井市長、副会長には土性里花さんが選任されました。会合では、子育て世代253人(246人が回答)に実施したアンケートで、約7割が同センターでの分娩継続を希望すると回答したとの結果を報告しました。

今後、委員会では、丹波篠山市の産科の充実に向けて取り組んでいきます。第2回検討会(7月27日)には、兵庫医科大学に出席いただき、説明を受ける予定です。